

平成 29 年 11 月 15 日発行

# 第 68 号 全戸配布用

## わが街 太子堂・三軒茶屋 スポットライト

発行：太子堂連合町会  
ミニコミ紙編集委員会  
事務局：太子堂  
まちづくりセンター  
電話：5787-6368

### 世田谷区立太子堂中学校 創立七十周年を迎えて

太子堂中学校校長 板垣 仁

地域のみなさま、世田谷区立太子堂中学校は、今年度創立七十周年を迎え、おかげ様をもちまして、記念祝賀会と合同記念式典が無事終了いたしました。今後も地域に密着した学校づくりを目指してまいります。

太子堂中学校は開校以来、地域のみなさまの温かいご支援とご協力をいただきながら、七十年の道のりを歩んできました。

十月二十八日の記念祝賀会、また十一月十一日の合同記念式典にご臨席賜り、厚くお礼申し上げます。また、祝賀会当日には、太中会のみなさまや PTA より、数々のお品をご寄贈いただき、本当にありがとうございました。



さて、学校沿革史によりまますと本校は、昭和二十二年四月、太子堂小学校の敷地内の仮校舎で在籍生徒二一七名が学校生活をスタートさせたとのことです。同年五月、小学校体育館において、開校式が挙行され、昭和二十四年一月、中学校校舎が完成し、太子堂中学校は現在の敷地に移ったのです。その後、学校規模も徐々に大きくなり、ピークの三十七年度には生徒数八八二名十九学級だったそうです。昭和四十年代から学級数も十一学級、十二学級の規模が二十年間続き、平成に入ると全国的な少子化傾向の影響等もあり、平成三年度は六学級、十七年度には各学年一学級の単学級となり、現在に至

っております。

私は第十九代校長として、全教職員とともに、より一層の学校の活性化のため、学校規模拡大を目指してまいりますが、小規模校のメリットを最大限生かす教育もさらに充実させてまいります。

具体的には、生徒一人一人を大切にしたいきめ細かい教育の徹底、個々の教育ニーズに応えた柔軟な学習内容や指導法の工夫・改善、「生徒みんなが主役」を合言葉に、学校の活動の中で全ての生徒が活躍できる場のある学校作りです。そして生徒が主体的に学習や諸活動に取り組む態度を育成するとともに、ボランティア活動の参加率100%を数値目標とし、進んで地域貢献できる人材の育成を目指してまいります。

しかしながら、これらは、地域のみなさまのご理解とご支援があつてこそ実現が可能になるのです。

現在も学校支援地域本部コーディネーターの方々を中心とした取り組みにより、生徒の学習意欲向上に貢献していただいております。また、「サバイバルキャンプ」「D級ボンブ訓練」などの防災訓練、「地域清掃」や「ごみゼロデー」などの清掃活動ボランティア、「ふれあいまつり」のお手伝い、「芋煮会」、「花植え作業」、「子どもマラソン」のお手伝いなど、生徒たちに数々のボランティア活動体験の機会を提供して下さることで、生徒は主体的に取り組む態度を育成することができているのです。このように、地域のみなさまには、本校生徒の健全な育成に大きく貢献していただき、心より感謝申し上げます。今後とも、太子堂中学校の教育活動推進のため、ご支援とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 感動！車椅子の上で観た 北アメリカの「皆既日食」

八月二十一日(現地時間)皆既日食を観てきました。場所はアメリカ合衆国の西部に位置する、ワイミング州の小さな町。朝目覚めてすぐ、日食が見える南側の空を確認。雲一つない真っ青な空に、この日の主役、太陽が眩しく輝いていました。午前十時過ぎから「日食メガネ」を通して太陽を観ると、右上から月の陰に入って欠け始め、約一時間半後には、細い輪の一部だけになったかと思うと、遂に月の陰に隠れると(皆既日食の始まり)、月面の凹凸により漏れる太陽光が、ダイヤの指輪のように輝く「ダイヤモンドリング」、続いて真っ黒い太陽の周りに「白いコロナ」が見えた後、再びダイヤモンドリングが出現。皆既日食中は肉眼でこの素晴らしい天体ショーを観ることができ、思わず感動の涙を流してしまいました。



yahoo より

五年前、東京で金環日食を観て以来、次は皆既日食を是非観たいと思っていた私の身体は、実は、病院の車椅子の上になりました。何故なら、この二日前、急性性虫垂炎(盲腸)を発症し緊急手術を受けたからです。「アメリカで盲腸を切った？治療費が大変だよ！」皆が心配して声を掛けてくれました。病院からの請求は、七日間入院して、医療費は四百五十万円余り(一ドル百十円換算)でした。幸い成田出発前に損害保険に加入していたため、大きな出費は免れました。皆様海外旅行にお出かけの際は、是非、保険に加入されることをお勧めいたします。

(ミニコミ K・T)

### 短歌への誘い 冬の歌

もう冬はそこまで来ていますね。大掃除やお正月の準備で忙しい季節。ふと手を止めて、短歌の鑑賞はいかがでしょう。田子の浦にうち出でてみれば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ

山部 赤人

田子の浦にさしかかると、海は広がり、浜は入り江に沿って緩やかにのび、仰ぎ見れば、中空にくつきりと、白く清冽な富士の峰。

ここからはあくまでも端麗な穏やかな姿。だが、頂近くでは今この瞬間も、新雪の細かいひとひらひとひらが、舞いちり舞い落ちて、つもりつづけているのだらう。幻のように・・・

作者は、柿本人麿と並び称される万葉歌人。身分は低かったが、天皇に伴い、その足跡は広範囲に及びます。「奈良期の歌聖」とたたえられています。

鶺鴒の渡せる橋におく霜の  
白きを見れば夜ぞふけにける

中納言 家持

冬の夜は更けてわが守る宮中の階段にも、うつすらと霜が降りた。目を上げれば、果てしない空に横たわる天の川。その昔「織姫」、「牽牛」の、一年に一度の逢瀬のために、「かささぎ」が翼を連ねて、あの川に橋を架けたという。今その大きな橋にも川にも、まるで天の霜を置いたように、白い光が冴え冴えとちりばめられ凍って冬の夜は深々と更けた。作者は万葉後期を代表する歌人。中納言という身分は決して低くはなかったが、政治的には不遇に終わったと言われています。

日常を少しお休みして富士に思いをはせ、冬の夜空を見上げてみませんか。

(ミニコミ W・S)